

学校は、定期的に照度検査や水質検査等様々な点検をしていただいている。先日は、空気の検査があった。薬剤師さんに「とてもよい」とほめていただいた。コロナ以降常にあらゆる窓を5 cmほど開けていて、空気の流れができていることも要因の一つかもしれない▼今週は、インフルエンザ等で欠席している子も少ない。マスクをはめて予防している子も多い。しかし、手洗いの石鹸は相変わらず減らない▼その一方で、給食を班の形にして食べる学級も出てきた。教室では、班学習等「密」になる場面も増えている。コロナで学んだ新しい生活様式を踏襲しながら、ストレスのない教育活動を模索する職員▼模索といえば、5年生と6年生が給食の配膳を手早くしようと取り組んでいる。特に競っているわけではないが、5年生はとても意識している。人数が異なるので、直接は比べられないが、現在5年生は約13秒/人、6年生は約15秒/人の時間を要している▼コスパという言葉はよく耳にするが、この取り組みは「タイパ」というようだ▼先輩に大人の1分と子どもの1分は、体感的な長さが違うということを教えてもらったことがある。人生の長さに関係するらしい。簡単に言えば、大人の1分は短い。子どもの1分は長い▼大人は子どもの1分が待てないのだ。つい、「はやく！」と言ってしまう。子育てとかけて盆栽と解く。その心は、「菊」と「松」。